

■ 網走かわまちづくり検討会

■ 網走かわまちづくり検討会の開催状況

網走かわまちづくり計画に対して、網走市内で様々な活動をされている方々からご意見をいただく場として、網走市が「網走かわまちづくり検討会」を設置しました。

現在までの開催状況は、以下のとおりです。

開催年月日	検討会
平成 27 年 10 月 30 日(金)開催	第 1 回 網走かわまちづくり検討会
平成 27 年 12 月 10 日(木)開催	現地見学会
平成 27 年 12 月 21 日(月)開催	第 2 回 網走かわまちづくり検討会
平成 28 年 01 月 29 日(金)開催	第 3 回 網走かわまちづくり検討会
平成 29 年 02 月 28 日(火)開催	第 4 回 網走かわまちづくり検討会
平成 30 年 01 月 16 日(火)開催	第 5 回 網走かわまちづくり検討会

■ 第 5 回 網走かわまちづくり検討会

日時：平成 30 年 1 月 16 日(火) 10:00~11:30
 場所：オホーツク・文化交流センター 2 階 大会議室
 議事次第：

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事質疑
 - 1) 網走かわまちづくりのハード施策とソフト施策の進捗状況
 - 2) 網走かわまちづくり事業周辺箇所等の利活用構想について
 - ・ 河川敷地占用許可の特例制度について
 - ・ 網走かわまちづくり事業範囲の延伸検討について
4. 閉会



第 5 回 網走かわまちづくり検討会の様子

■ 委員名簿

網走市 企画総務部 秋葉 孝博 (欠席)	網走青年会議所 五十嵐 台樹 (欠席)	網走ちゃんぼん研究会 石原 基	網走サイクリング協会 井戸 達也
網走市観光協会 井上 範一	Forever 網走 上原 桃子 (欠席)	網走市 観光商工部 大西 広幸	網走セーリング協会 榎原 宏洋
網走商工会議所 佐藤 進介	みなとまちづくりマスター 杉本 匡規 (委員長)	網走市 観光商工部 田口 徹 (欠席)	網走市 建設港湾部 立花 学
網走青年団体連合会 福田 稔 (欠席)	道東観光開発 (株) 松島 昇 (欠席)	網走市 建設港湾部 山本 規与思	網走市 社会教育部 吉村 学

(五十音順、敬称略)

第5回 網走かわまちづくり検討会 議事要旨

日時：平成30年1月16日(火) 10:00～11:30

場所：オホーツク・文化交流センター2階 大会議室

出席者：石原委員、井戸委員、井上委員、大西委員、榊原委員、佐藤委員、杉本委員、立花委員、山本委員、吉村委員 計10名

(オブザーバー) 網走開発建設部 公物管理課、治水課、北見河川事務所 計6名

(議事要旨)

1. 開会

2. 会長挨拶

様々な見聞をしながらかわまちづくりを実施していく構想を打ち出し、今まさに実現の第一歩を踏みだそうとしている実感がある。

網走かわまちづくりは、網走の未来を創ることであり、各委員が自負を持って、現在までの取り組みの進捗状況や今後の予定、ルートの特活用、網走湖を含む広範囲なまちづくりの可能性について意見を交わしながら、検討会を進めていきたい。

3. 議事質疑

(1) 網走かわまちづくりのハード施策とソフト施策の進捗状況

網走かわまちづくりのハード施策とソフト施策の進捗状況について事務局(網走開発・網走市)から説明し、委員から以下の発言があった。

- ・全国的にも有名な観光施設である網走刑務所と網走市街地を結ぶルートも考えているが、網走川新橋左岸の橋梁箇所の上流側で既存道路と繋がっていないため、動線を確保するための取付道路の整備が必要である。
- ・案内看板にQRコードを表示させたり、既に実施しているICチップを利用した情報案内システムと連携しながら、スマートフォンからインターネットで散策ルートを検索できるよう計画をしている。
- ・設置する看板は、見ただけで何を目的としているのか、わかるようにするべきである。
- ・設定するルートのキャッチコピーを付けて親しみやすさを持たせることで、市民の利用に繋がると思う。
- ・ルートがしっかり確保されて、人の流れができる。ルートとして愛称をつけた方が良いのではないか。
- ・網走かわまちづくりの取り組みは、まだ市民に浸透していないので、ルートにふさわしいネーミングをすることで周知にもつながると思うので、公募してはどうか。
- ・ルートのネーミングが良いのか、総称なのか、施設別にネーミングするのか、周知の一環とす

るのか、色々考えられる。

- ・公募にあたっては、検討会での検討状況の周知と合わせて行うことが重要である。
- ・ルートの周知にあたっては、皆がスマートフォンを持っているわけではなく高齢者もいるので、チラシ等があればよいのではないか。
- ・道の駅のレンタサイクル利用が増えており、広範囲に移動ができるという部分で、今後需要を増やしていきたい。道の駅をうまく活用すれば、自転車だけでなく合宿のランニングコースや散歩にも使ってもらえると思う。
- ・毎年、網走湖からエコーセンターまでの川下りをやっているが、川の中から見ると河川敷はきれいなようで汚い箇所もあり、上陸する場所も限られる。川下りの際には、参加者の親御さんがカメラで追いかけて撮影したりしているの、ルート案内がわかりやすくなれば、川筋が利用しやすくなるのではないか。
- ・遊歩道として使う場合、起終点での駐車場の整備は必要であり、施設の利用条件等を明確にしておくのが望ましいと考える。
- ・網走刑務所前の駐車場は、有料のイメージがあり使いづらいので、PRが必要と考える。
- ・道の駅を中心とした網走川右岸から左岸への動線確保については、網走市が今後具体的な検討を進めていく。
- ・イベント時の照明の明るさや電源の確保等については、網走市からイベント使用者と直接協議して決定することで良い。

(2) 網走かわまちづくり事業周辺箇所等の利活用構想について

河川敷地占用許可の特例制度や網走かわまちづくり事業範囲の延伸検討について、事務局(網走開建)から説明し、委員から以下の発言があった。

- ・河川敷地の占用に関する特区については、利用範囲や用途等においてどのようなニーズがあるのか把握する必要があり、網走市で検討を行うこととする。
- ・川筋に飲食施設を設置するなど、川筋の魅力を発見・実感できるイベントを試験的にやることで、これがきっかけで、飲食に関わる人が「こんなことをやりたい」と思ってもらえるようになるので、実現の可能性を見出すための機会を作っていく必要がある。
- ・整備箇所が如何に市民に使われる場所になるか、利用イメージが重要である。整備箇所の利用は土日の憩いがメインになるがアクティビティがないので、水辺で何をすれば人が集まるのか検討する必要がある。
- ・小学生の遠足ルートや社会教育での利活用の検討が必要である。
- ・観光に主眼を置いた場合、網走かわまちづくりの事業範囲と周辺地域や観光施設等とのリンクをさせる必要がある。
- ・網走かわまちづくり事業範囲延伸の計画変更を平成 32 年度までに行いたく、網走湖呼人方面等への可能性を検討会で議論していきたい。

(3) その他

網走かわまちづくりの取り組み全般に関連して、委員から以下の発言があった。

- ・現状では、地域の人や観光客すべての人にオールマイティーな案を考えているが、ターゲットをどこに絞るかを最初に見定めることが重要ではないか。
- ・ハード施設が市民に愛され使ってもらうことが重要で、市民が愛着の湧く整備をすれば観光客はその後についてくると思うので、まずは地元優先で考えるのが望ましいと思う。
- ・現状の検討会では身動きがとりづらいので、検討会の中に新たに PR や利活用を考えるグループを作って活動した方が良いのではないか。
- ・個別箇所の議論は全体にも波及するので、今後、個別箇所に特化した話し合いを行っても良いと思う。
- ・ボックスカルバートができて川筋が通りやすくなるのは、市民にはあまり知られていないので、公表できる資料を活用して委員から SNS 等を活用して周知していくことも重要なのではないか。
- ・こういう取り組みを行っていかないといつまでたっても市民に伝わらないので、少しずつ活動していければと思う。
- ・整備をして終わりではなく今後の利活用に繋げていくため、定期的にルート上のゴミ拾いを行うこと等の取り組みも必要ではないか。

4. 閉会

以上